

群馬県における学校飼育動物に関する教員研修の取組み

中村清志

1 はじめに

生き物とのふれあいは、生命尊重の心や責任感の育成などに効果があると考えられており、多くの学校で様々な動物の飼育が行われている。

また、小学校学習指導要領には、生活科・理科・道徳等において「生命愛護」「生命尊重」の態度を育てることが明記されている。指導要録の行動の記録にも「生命尊重・自然愛護」の評価項目がある。

群馬県教育委員会では、学校における動物飼育の現状を知るため、平成16年、17年に県内小学校を対象に動物飼育に関するアンケートを実施した。その結果から、90%以上の小学校で動物の飼育が行われており、教師は、子どもたちが動物とふれあうことが大切であると感じていること。しかし、実際に動物とふれあっているのは、飼育委員のみである学校が80%を超えること。また、特定の教職員だけに、負担が集中している小学校が非常に多いこと。多くの小学校が土曜日・日曜日の世話や長期休業中の世話を課題を抱えていることなどが明らかになった。また、教職員の中には、動物とふれあうための技術と授業への導入について、不安を抱えており、獣医師をはじめとする専門家による指導助言を求める意見が多いことが判明した。

今後の学校教育では、学校飼育動物を活用し、学校生活の中で、子どもたちが生き物とふれあう場面を計画的に設定し、生命愛護や生命尊重の教育活動を行うことが今まで以上に重要となる。そのためには、教職員が学校飼育動物の正しい飼育方法や教育活動での活用について、研修等を通じて学ぶことが大切である。

ここでは、群馬県で実施されている、学校飼育動物に関する教員研修を紹介する。

2 群馬県における教員研修の取組

(1) 群馬県総合教育センターでの取組

① 指定研修

ア 初任者研修

幼稚園等新規採用者と小学校初任者（選抜受講）を対象に、動物飼育の意義、群馬県における支援体制、飼育の基礎知識について講義と、動物とのふれあい方の実習、そして、動物飼育に関する情報交換を行っ



ている。

イ 10年経験者研修

幼稚園等10年経験者研修では、講義と実習、そして、参加者間での情報交換を通じて、幼稚園における動物飼育のあり方や効果的な活用、実践的な指導力の向上を目指した研修を行っている。

② 希望研修

平成15年度から、「学校飼育動物と生命尊重の教育」をテーマとした希望研修を開催している。この研修では、群馬県獣医師会との連携を生かし、学校飼育動物を通じた生命尊重の教育について理解を深めている。また、獣医師の直接指導のもと、飼育動物の適切な飼育方法や正しい接し方などを学んでいる。

3年間の取組を以下に示す。

ア 平成15年度

・「生命の尊さを実感させるための動物とのふれあい」

群馬県獣医師会、群馬県教育委員会、小学校から学校飼育動物担当者を講師に、学校飼育動物の現状と課題についてシンポジウム、講義と実習、ディスカッションを行った。

イ 平成16年度

・「体感し理解する学校飼育動物」

獣医師を講師に招き、楽しく動物を飼育する方法と動物介在教育についての講義と、動物とのふれあい実習を行った。

・「学校飼育動物の飼育環境整備と生命尊重の教育」

獣医師との連携を活用し、学校飼育動物の飼育環境整備や生命尊重の教育に取り組んでいる小学校を会場に、獣医師から見た動物飼育のあり方や飼育環境整備の工夫、室内飼育の導入まで経緯や導入後の児童・教師・保護者の意識の変化について研修した。

・「より多くの子どもたちが動物とふれあえる学校づくり」

動物の飼育体験を大切にして生命尊重の教育を育むことをテーマに、行政担当者と獣医師を講師を招き全国レベルの動向を講演していただき、その後、参加者との意見交換を行った。

ウ 平成17年度

・「学校飼育動物と生命尊重の教育」

群馬県獣医師会学校動物愛護指導委員会に講師を依頼し、学校飼育動物の現状と課題をふまえて、動物介在教育の意義と効果、楽しく飼育を実践するための組織作りと指導計画の必要性などについて学んだ。

講義の後には、最新の室内飼育器具の紹介や、ウサギ（ホーランドロップ種）を用いた動物とのふれあい体験実習を行った。

・「先進校に学ぶ学校飼育動物の飼育と授業での活用」

獣医師との連携を工夫し、室内飼育や、授業での活用に積極的に取り組んでいる小学校に出向き、「どうぶつふれあい教室」授業の参観と、その先進的な取組の実際や活用の工夫を学んだ。

③ わくわく観察実験支援隊（観察実験出前講座）

・動物飼育ふれあいセミナー

学校からの依頼に応じて、各学校の現状



獣医師から動物の扱い方について学ぶ

に応じた学校飼育動物の正しい飼育方法や教室内での小動物の飼育、授業での活用方法について、センター職員が学校へ出向き、教職員対象の研修を提供している。

(2) 小学校におけるふれあい動物飼育研修会

平成16年度から、ふれあい動物飼育の推進と充実を目指し、県下各小学校から先生1名ずつに参加してもらい、「小学校におけるふれあい動物飼育研修会」を開催している。

この研修会では、群馬県獣医師会による「動物とのふれあい実習」と、「小学校におけるふれあい動物飼育の推進委員会」が作成した「学校飼育動物飼育マニュアル・授業等における活用事例」をもとに、学校飼育動物の正しい飼育・管理の方法と授業での活用について、講義を実施している。

毎回、多数の獣医師の協力により、少人数の班に分かれて、ウサギやニワトリとの正しいふれあい方や最新の飼育方法などを直接指導していただいている。

この研修会には、2年間で、のべ470名以上の小学校教職員が参加している。

3 おわりに

群馬県では、これまでにも、動物とのふれあいを通じて、動物愛護の精神の養成、生命尊重の教育、責任感の育成などを実現するために、各種の研修を実施してきた。しかし、学校での動物飼育には、多くの課題がある。

まず第一に解決しなければならないのが、飼育環境の整備である。このことを通じて、学校における動物の飼育・管理が、計画的・組織的に行われるようになり、より多くの児童が日常的に動物とふれあい、生命尊重の心を育てる授業の中で学校飼育動物を活用できるようになるはずである。そのためには、今までの研修に加え、小学校初任者研修等の指定研修や管理職研修の中に学校動物に関する研修をしっかりと位置づけることが必要であると考えている。すべての教員が研修を受けることで、共通理解をもとにした組織的な学校での動物飼育が可能になるであろう。

最後に、群馬県では、群馬県獣医師会が、「動物ふれあい教室」等の活動を通じて、学校飼育動物の適切な飼育管理、生命尊重の教育への活用等について、長期にわたり積極的に学校と連携してくれている。この獣医師会の取組に感謝するとともに、全国でも先進的な協力体制を十分に活用した研修を今後も継続・発展させたい。

(群馬県総合教育センター指導主事)